# 特別の教科道徳学習指導案

指導者 田部 彩香

- **1 日 時** 令和7年11月15日(土) 第1校時(9:00~9:45)
- **2 学年・組** 小学校第4学年1組 計30名(男子15名,女子15名)
- **3 場** 所 4年1組 教室
- **4 単元名** 「共に生きる」(Dの視点)
- 5 単元について

「共に生きる」ことについて考えるためには、人間の生命の尊さについて考えるだけでなく、生きているもの全ての生命の尊さも大切に考えなければならない。家族や社会的な関わりの中での生命や、自然の中での生命、さらには、生死や生き方に関わる生命の尊厳など、発達の段階を考慮しながら計画的・発展的に指導し、様々な側面から生命の尊さについての考えを深めていくことが重要である。そこで、本単元において、「自然愛護」・「生命の尊さ」の二つの内容項目を取り扱う。また、三つの教材内容から、多面的・多角的な考えの広がりや深まりが感じられるような順序を考え、指導計画を作成した。

本学級の児童は、国語科「一つの花」の学習で「戦争によって失われた命」について考えた。「ごんぎつね」では、「人間と動物の命」について考えた。また、学校行事「海の学習」の漁体験において、生きたタコに触れたり、自ら捌いた魚を食べたりすることで「いただく命」を実感している。

指導に当たっては、「見守り型支援」を手立てとして、児童が自ら考え、議論する姿を実現したい。具体的には、展開で二つのグループに分かれて話し合う「話合いタイム」を設定する。児童は自分の考えを書き、それぞれのグループで話し合う。さらに、まとめの時間では、互いのグループの意見交流を行う中で、自分のグループにはない感じ方や考え方を確かめることができるよう「学び合いタイム」を設定する。終末では、友だちの考えで「なるほど!」と思ったことを視点にして振り返ることで、自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとする姿を見取りたい。

これらの学習を通して、与えられた生命を一生懸命に生きることのすばらしさについて考え、自分と 同様に生命あるもの全てを尊いものとして大切にしようとする心情を育てたい。

#### 6 単元の目標

野生生物の獣医や戦時中の飼育係、日野原先生の生き方を通して、人間だけでなく様々な生命と共に生きることの大切さに気付き、限りある命を大切にして生きようとする心情を育てる。

### 7 指導計画(全4時間)

次	時	主題名「教材名」(内容項目)
1	1	自然の命を守る 「聞かせて, 君の声を!」(D 自然愛護)
2	2	生命あるものを大切に「かわいそうなぞう」(D 生命の尊さ)
3	3	命を大切にする生き方「あなたの時間にいのちをふきこめば」(D 生命の尊さ)
	4	命を大切にする生き方「あなたの時間にいのちをふきこめば」(本時4/4)

#### 8 本時の目標

命を大切にするということは、その時間を延ばすだけでなく、その命をどのように使うかという生き 方にも関わることに気づき、限りある命を大切にして生きようとする心情を育てる。

## 9 「共に生きることを学ぶ道徳科の授業づくり」との関連

## 個人内評価としての見取り

道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠や心 情をさまざまな視点から捉え、考えようとしている。 <発言, ノート>

自分と違う立場や感じ方, 考え方を理解し ようとしている。

#### <発言, ノート>

#### 【立場を変えた視点】

自分だけでなく, 教材に出てくる日野原先生や自分 の家族など、様々な立場から考えようとしている。

## 【時間軸を移動させた視点】

これから先の自分について考えようとしている。

#### 【他の道徳的価値の視点】

限りある命を大切にして生きようとする心情には, 他の道徳的価値が関連していることを考えようとし ている。相互理解, 寛容, 家族愛等

- こんな考え方があるのか。(他者理解)
- この考え方は、私と同じだな。(共通点)
- ・ この考え方は、私と違うな。(相違点)
- ・ 同じ意見でも、理由が違うな。(相違点)
- AさんとBさんの意見は似ているな。(類 似点)

## 10 学習の展開

学習活動と内容(○発問 ◎中心発問)

1. 前時の学習を想起し、本時の見通しをもつ。 (3分)

- 2. 自分の考えを書き、それぞれのグループで話し合う。 話し合いタイム|(25分)
- ○日野原先生は、なぜ百歳を過ぎてもずっと活動を続け | 自分の考えを深めたり整理したりする たのでしょうか。(○日野原先生は、どのような思いで 活動に取り組んできたのでしょうか。)
- ・自分にできる精一杯のことをしたいから
- ・自分以外の命も大切にしてほしいから
- ・自分がもっている時間という命を大切にしてほしい から
- ・友だちや仲間を大切にしてほしいから
- ・家族を大切にしてほしいから
- ・社会で関わる人を大切にしてほしいから
- ・人々の争いをなくしたいから
- ・いじめをなくしたいから
- ・平和な社会を実現したいから
- ・未来を担う子どもたちへ伝えたいから
- ・次の世代へ伝えたいから

指導上の留意点(◆評価)

- 前時の学習を想起するために、板書や 掲示物を提示する。
- ためにノートに書く時間を設ける。
- 全員の考えを引き出すために、司会者 が中心となって話し合いの進行をする。
- ◆ 道徳的価値に関わる問題に対する判断 の根拠や心情をさまざまな視点から捉 え、考えようとしている。【発言、ノート】
- 道徳的価値の理解に迫るために、補助 発問を用意する。(日野原先生の言葉「あ なたの時間に命をふきこめば, その時間 は生きてくる」には、どのような思いが 込められているのだろう。)

- ◎あなたは、自分の命をどのように使いたいと思って いますか。
- ・毎日という時間を一生懸命生きる
- ・目の前のことを頑張る
- ・自分で目標をたてる
- ・自分の命を大切にする
- ・自分の時間を大切にする
- ・自分の心を大切にする
- ・自分だけでなく、人や動植物、ものの命も大切にする
- ・自分だけでなく、家族のために使いたい
- ・社会の役に立ちたい
- 3. 互いのグループの意見を交流し、新たな感じ方考え 方を学び合う。学び合いタイム (10分)
- 4. 本時の振り返りをする。(7分)
- ○友だちの考えで「なるほど!」と思ったことを視点に ◆ 自分と違う立場や感じ方、考え方を理 してふり返りましょう。

○ 自己の経験やこれからの生き方につい て語ることができるように、問い返し発 問を用意する。(例えば?具体的には?ど うして?理由は?人間だけに使うのか な?など)

解しようとしている。【発言, ノート】